

## 三田市議会市民との意見交換会 実施報告書

意見交換会名	三田市議会報告会 お聞かせください“みなさんの声”	班名	3班
開催日時	令和4年4月24日(日) 14時00分～15時00分		
開催場所	市役所6階 委員会室		
出席議員	(班長) 檜田 (副班長・司会) 幸田 出席議員：厚地、森本、中田、井上、福田		
参加人数	10人		
実施概要 (テーマ・報告 内容・進行等)	◆議会報告 ①令和4年度予算審査報告 ②意見・提案に係る議会見解報告 ◆意見交換 ・予算審査報告について ・事前提出意見・提案について ・その他意見について		
主な意見・ 要望・提案 (意見交換の 内容)	【事前提出意見・提案についての議会見解】 Q 市民病院の再編・建替えを行えば多額の資金が必要となり、その資金調達に大きな課題が生じると考える。資金調達にSPC(特定目的会社)等の手法を使うのではないかと懸念しているが。 A SPCは大型不動産を運営する為に不動産を金融商品化し資金を調達する手法であり、病院の運営には馴染まないと考える。市に確認したところSPCは考えていないとの回答があった。PFIは公共施設の運営に民間の資金や経営能力を活用する手法であり検討される可能性は否定できない。 北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会では、施設設備維持について2病院維持よりも1つの病院に集約化した方が医療機能向上と資金・資源投資の集中化という観点から望ましいとの報告が出ている。市は経営形態として地方独立行政法人や指定管理者制度を含む公立病院であり続けることを目指すとしている。 Q 再編統合が進み、統合後の病院が神戸市内に建設されると、三田市内に夜間救急に対応できる病院がなくなってしまう。市民の多くは安心できる救急体制の維持を望んでいる。 A 市民が安心できる救急体制の必要性は議会も共有している。 必要医師確保など、様々な課題を抱える中、どのような方策をとれば、市民の命を守れる救急医療体制が持続的に確保できるかを考えていかなければならない。再編統合はその為の選択肢の一つではある。 Q フラワータウン・ウッドタウンの歩道樹木を3分の1に減らしてはどうか。三田市は山に囲まれ緑が豊富なので景観上の問題は無いと考える。台風等自然災害時の倒木防止対策効果や維持管理費の大幅削減効果が期待できると考える。		

A これまで議会からも同様趣旨の質問や要望を当局に対して行っている。特に、樹木の根が歩道を破損させ歩行者の安全面での支障を生じさせる『根上がり』の課題については当局も重要視しており、あかしあ台自治会と街路樹削減の協議を行った。しかし、景観上、街路樹を減らす事への抵抗感を持つ市民の声が大きくなり、また、このような市の動きに対して、否定的な報道もあり、樹木を削減するための合意形成への取り組みは後退した。市は現在、街路樹の適量化と適正な維持管理を目的に『街路樹の適正な育成・管理に向けた基本方針』の策定を進めている。議会としても市民とともに、適正な街路樹の維持管理のあり方を考えていきたい。

- Q
- ・個人情報保護法の制約の中で当事者同士のつながり（身障協視覚部会の会員拡大）をどのようにつくっていけばよいか。
  - ・災害時避難行動要支援者の支援計画（特に視覚障害者の避難計画）はどの程度進んでいるか。
  - ・市が行うイベントの際の視覚障害者への配慮について。（紙資料だけでなく持ち帰り用の音声資料の配布ができないか。）
  - ・日常生活用具の補助拡充ができないか。音声式の血圧測定器や体重測定器は視覚障害者の健康管理に欠かせない。同居人の補助に頼らずに自立したい。
  - ・市役所駐車場前の信号機の音声式化を進めたい。J R 三田駅から総合福祉保健センターに向かう動線がここで寸断される。

A 5点の貴重なご意見をいただいた。議会としてこれらの声に丁寧寄り添いながら、当局へ適切な支援を求めていきたい。その中で優先順位を考へることも必要である。信号機については既に市から兵庫県警に対して要望を行っており、県警の判断を待っている状況である。災害時避難行動要支援者の計画については、現在、市が各自治会と連携をとりながら、避難行動要支援者名簿の策定を進めている。名簿を地域団体と共有することに対する同意が現時点で約3000名分あり、内、視覚障害者の方が80名となっている。個別支援計画の策定は災害危険個所にお住まいの方（内、視覚障害者は23名）から優先的に取り組み、避難体制整備を急いでいる。日常生活用具については、個々の状況や課題によって必要とされるものが多岐にわたり、種類も様々である。その他の課題も含めて、実情をしっかりと見極め、当事者の方、そしてサポートされる方の声を聞き、各々の立場に立って、最適な支援策を考へ要望していきたい。

**【事前提出意見・提案についての再質問】**

Q SPCの手法はあり得ないと考へてよいか。北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会でPFIに関する発言もあったが。

A・SPCについては考へにくい。市にもその考へは無いと確認している。PFIについては公共施設に民間の資金や経営能力を活用する手法であり否定はできない。現時点で資金調達の方法に関して決定していることは無い。

・先日、検討委員会から再編が最適との報告書の提出があった。今後、市や済

	<p>生会兵庫県病院等、関係当事者が検討に入っていく。再編統合となれば当然多額の資金が必要になるが資金繰りに関して、まだ何も決定していない。市は今後、検討委員会からの報告書を参考にしながら、様々な意思決定を行うためのプロセスに入るが、議会は市から報告を逐一求め、市民の意見を聞きながらこれに対応していきたいと考える。</p> <p>Q 日常生活用具は、生きていく上で重要なもの。視覚障害者でも、個々の状態により課題が多岐にわたり、必要になる用具も様々であり、要望の出し方についても迷う事がある。今日、参加されている市民の方にも視覚障害者について少しでも理解してもらおうと参加した。</p> <p>昨年度は郷の音ホールの点字ブロック設置について、議会の協力に大変感謝している。今後もサポートをお願いしたい。</p> <p>A 3月末に、郷の音ホール内に点字ブロックが設置された。長い間、視覚障害者の方にはご不便をかけた。今後も視覚障害者の課題解消に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>【その他の意見】</p> <p>Q 聴覚障害者団体の主催で学習会を開催する場合、手話通訳が必要となり、手話通訳者の派遣費用が主催団体の負担になる。聞こえる人は学習会の開催も参加も自由にできて音声で情報を得ることができる。私たちは手話通訳が必要となり負担が生じる。ここに情報の格差がある。他市では手話通訳派遣補助を行っている事例もある。議会で取り上げていただけるとありがたい。</p> <p>A 聴覚障害者団体からこれまでもいくつか要望をいただいているが、まだ実現していないこともあるかと思う。議会に決定権はないが、市民の声を聞いて、各議員が市に対し提案や要望を行うことはできる。過去には、この議会報告会で提案いただいたことにより、『NET119』という緊急通報システム整備事業が実現したという実績がある。議会報告会の意見交換のほかにも三田市議会はグループで参加していただく『伺います！さんだ未来トーク』という取り組みも行っている。市民が議員と意見交換し、議会から市への要望を上げるための機会になるので利用を検討いただきたい。</p> <p>Q 市民病院の再編統合に反対する団体のチラシを目にするが、これらに関する公式の情報が入ってこない。本日参加議員の発言を聞いていても、明確な見解をお聞きすることができない。市民病院のあり方に関して市民からの声をどのように議会に届けばよいか。</p> <p>A 相談者が団体であれば『伺います！さんだ未来トーク』、個人であれば『市政相談』という形で、市民の意見をお聞きする取り組みを三田市議会は行っている。これらを利用し、相談いただくのが一つの方法である。意見交換という形ではなく、資料などの提供だけであれば、議会事務局に持参されれば常時対応できる。</p>
--	---

令和4年4月28日

議会改革推進会議委員長 様

上記のとおり、実施いたしましたので報告します。

班長 檜田 充